

2022年11月29日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ワールドカップと相場に通ずるところ】

ワールドカップでの熱戦が、毎日、報道されています。

サッカー日本代表は、初戦のドイツ代表との戦いで、前半に1点を先制されたものの、後半に2点を取り、見事な逆転勝ちを収めました。

優勝経験も豊富で、今回のワールドカップでも優勝候補に挙げられるドイツ代表に、逆転勝ちをしたことは、正に快挙であり、サッカー日本代表のレベルが高くなったことの証明と言えるでしょう。

この時点で、サッカー日本代表は、次戦のコスタリカ代表戦に向けて、最善の準備を心掛けた、と考えます。

そこに、「慢心や油断は無かった」と考えます。

しかしながら、それでも、「自覚の無い慢心や油断」が存在していたのだろう、と推察します。

自らが「慢心や油断が無い」と意識している場合の、「無意識の慢心や油断」は、質の悪いものです。

日本代表を応援するサポーター(サッカーファン)にも、「無意識の慢心や油断」があった、と考えます。

ドイツ代表に勝ったのだから、初戦でスペイン代表に7対0で敗れたコスタリカ代表には勝てるだろう、あるいは、勝って当然の意識があった、と考えます。

それは、サッカー日本代表の選手を責めているのではなく、また、代表監督を責めている訳でもありません。

マスコミや、サポーター(サッカーファン)を責めている訳でもありません。

勝負事は、「やってみるまでわからない」そして、「下駄をはくまでわからない」ということ。

今回のワールドカップのグループ戦を総覧して、事前の評判通りには運んでいない、と、つくづく感じます。

厳しい予選を勝ち抜いてきた各国のサッカー代表は、それぞれに強い、と感じます。

+++++

相場も勝負事であり、通じるところがある、と感じます。

常々「慢心や油断」が無いように心掛けていても、誰にでも、どこかに「無意識の慢心や油断」があったりするものだ、と考えます。

一般的に、それを相場の世界では、「想定外」と表現するように思います。

ただし、「想定外」のことが起こっても、それに対応していくことが相場に臨むこと、と考えています。

+++++

話をサッカー日本代表に戻しますが、今回のワールドカップで、日本代表にとって「想定外」のことが起こった、と考えます。

「想定外」が起こるのが勝負事であり、それに対応していくことが、ワールドカップに挑むこと、と考えます。

まだ、グループ戦の最終戦に、スペイン代表との試合が残っています。

スペイン代表は、今回のワールドカップでの優勝候補の一つであり、強敵であることは間違いありません。

しかし、日本代表もドイツ代表に逆転勝ちするほどの実力を持っているのです。

最後の1秒まで、全力を尽くして、スペイン代表に勝ち、目標であるベストエイト以上の結果に結びつけて欲しい、と願っています。

+++++

+++++

(2022年11月29日東京時間14:05記述)